

# 『屋根の裏のバイオリン弾き!』

米永 道裕 作

## 登場人物

桜子・・・平岸高校生徒会長  
梅子・・・平岸高校生徒会副会長1  
竹一・・・平岸高校生徒会副会長2  
すもも・・・平岸高校生徒会書記  
松代・・・平岸高校生徒会会計  
樺男・・・平岸高校肉体改造同好会長。  
すももファンクラブ会員番号3番  
紅葉・・・平岸高校生徒会図書局長  
桐子・・・平岸高校演劇部部长  
菊代・・・平岸高校秘境探検同好会長  
藤子・・・平岸高校秘境探検同好会長  
セコイの警備員①  
セコイの警備員②

梅 子  
竹 一  
紅梅 葉  
紅梅 葉

ちよつと、おたけ！何かけてんのさ。  
いやあ、レコードなんて珍しいから。  
遊んでないでさっさと片づけてよ。もう時間ないんだから。  
はいよ。  
このファイルいるの？  
どれ。  
これ。

紅梅 子  
紅梅 葉

だからあ、3年以上前の資料は捨てないと片づかないわよ。  
ほい。

紅葉、5年前の会計決算書のファイルを渡す。

紅葉、ファイルをゴミ箱（大量に捨てる為の段ボール箱）に捨て、他の資料整理に入る。桜、生徒会長選挙の時に使ったタスキを見つける。

梅 子  
梅 桜  
梅 桜  
梅 桜

．．．  
桜、何してんの。  
ああ、これ、会長選挙の時のタスキ。  
そんなものまだあったんだ。  
懐かしいね。  
懐かしいってほど時間経ってないって。

桜、タスキを掛けてみる。

梅 子  
梅 桜  
梅 桜

え、この度生徒会長に立候補しました．．．  
あなたが遊んでどうするの。時間ないんでしょ、それ持って帰る。  
うん、いいや。  
そっ。

梅子、タスキをゴミ箱に捨てようとする。

梅 子  
梅 桜

あっ．．．  
いる？  
いや．．．

梅子、再び捨てようとする。

梅 子  
梅 桜  
梅 子

あっ．．．  
いるの。  
うん．．．  
もう。

梅子、桜にタスキを渡す。すもも、下手から樺男を連れて登場。

すもも  
梅 子

お待たせ。  
すもも、たかがゴミ捨てて来るのにどれだけ時間かけてるのよ。

すもも 梅子 だつて、あたしみんなと違つてか弱いから。  
すもも 梅子 殺す！  
すもも 梅子 いや、さん。  
すもも 梅子 絶対殺す。簀巻きにして穴道湖にぶち込む。  
すもも 梅子 すもも怖い。あつ、これ。

すもも、桜に封筒を渡す。

すもも 担任が、桜に渡ししてくれつてさ。  
すもも 桜 ありがとう。

すもも 桜 何？

すもも 桜 なんでもないわよ。

梅子 すもも ふ、さん。じゃああたし帰るから後宜しく。

桐子 すもも

すもも 何！

桐子 すもも あんたこの状況で帰るわけ。

すもも だつて、肉体労働は美容に悪いし。

松代 すもも あきらめて働くんだね。

すもも もう、。

すもも、携帯電話を出しメールを送る。樺男が飛んでくる。

樺男 桜

すもも L・O・V・E・ラブリーすもも！

樺男 誰？

すもも すももファン。

樺男 うつつす！すももファンクラブ会員番号3番。肉体改造同好会会長。磯野樺男

すもも 17才。すももちゃん。

樺男 あたしの替わりにしっかりと働くのよ。

松代 すもも うつつ。

樺男 あんた、力仕事出来るの。現在このような体になるべく肉体改造中ですから。バッチリです！

樺男、筋肉Tシャツを着て、ボディビルのポーズを決めようとするが、すぐに息切れする。

桐子 紅葉

すもも すげー。

樺男 すももよりは役立つんじゃない。

桐子 じゃあ、これ捨ててきて。

樺男 うつつす！おりや、とう、や、。。

桐子 すっげ、これ何処で買ったの。

樺男、段ボールを持ち上げようとするが、上がらない。

樺男 すもも ジャパネット、。

松代 すもも 何やってんの！さつさと運ぶ！

樺男 はい、。とりや、しゃ、うおりや、。。

松代 もう！貸しな。

松代 軽々と段ボールを持ち上げ、生徒会室の外に運ぶ。

桐子 すもも

すもも すもも、もう少しましなの居なかったの。

樺男 近くに居たのはこれだけだったから。

梅子 うつつ。例えば無くても、頭脳明晰、ルックス最高つつ。

紅葉 馬鹿が一人増えたか、。

すもも なんだあんたにファンクラブがあるのか世界の不思議ね。

すもも そんな、可愛いからに決まってるじゃない。

樺男 すももチャーン！  
すもも という訳で、あたし帰るから後宜しく。  
梅子 何っ！  
すもも だあって、肉体労働は美容に悪いんだもん。樺男、これ私だと思って持って  
いて。しっかり働くのよ。

樺男 うっす。  
すもも じゃあねえ。  
樺男 L・O・V・E・ラブリーすもも！・すももちゃん。

すもも、みんなに愛を振りまきながら下手に去る。

梅子 ちよつとすもも、すもも。  
樺男 すももちゃん・・。  
全員 ほら、みんな、片付け再開！  
樺男 はっい。

樺男 あんたも本縛るくらいできるんでしょ。  
全 員 ・・。なんかすももちゃんが居ないと労働意欲がわかないんだよね。

桜、すももに電話する振り。

樺男 あっ、すもも、樺男なんだけどさ・・。  
桜 さあどんどん持ってきて下さいよ。紐縛りはバッチリっすから。

桜、電話を切る振り。

梅子 桜、このペースだと明日までに生徒会室撤収間に合わないかもよ。  
桐子 うん。  
梅子 ねえ、これもう使わない。  
桐子 どれ？  
桐子 この椅子。  
桐子 そうね、新しい生徒会室ってこんなに広くないから使わないかもね。  
桐子 じゃあ演劇部でもらって良い？  
桐子 いいわよ、持ってって。  
桐子 サンキュー！ほれ、肉体改造、手伝え。  
樺男 樺男。  
桐子 いいから、筋肉増強中、早く持て。  
桐子 なんで俺が・。  
樺男 あっ、すもも・。  
桐子 おっしや、俺にまかせな！

樺男、椅子を持って下手に去る。

桐子 わかりやすい奴。

桐子、椅子を持って下手に去る。入れ替わりに松代出てくる。

松代 あと運ぶ物は。  
梅子 コンピューターとか机は行っちゃって良いけど。  
松代 じゃこれ運ぶね。

松代、コンピューターを一人で軽々と運んで行く。

竹一 これも、捨てるの。

竹梅 桐 桜  
一子 一子 一子  
そう、もう古いし、校舎が新しくなる時もつと良いPCが入るみたいよ。  
そうから、もったいない気もするけど・・・。  
なんでもかんでも取っておけないって。  
まあそうだね。

榊男、桐子戻ってきて、しばらく生徒会室の片づけをする。

梅子 60年も経つと色々溜まっちゃうよね。  
戦後、すぐに建てられた高校だからね。  
竹一 日本最後の木造校舎もやっとなんか建て替えてね。  
桐子 へへ、うちの学校ってそうなんだ。  
桐子 多分ね。  
梅子 多分って？

桐子 今時木造二階建ての校舎なんて絶対ないって。  
梅子 桜はあちこち転校して歩いてるからね。  
桐子 まあね。

桐子 桜、転校生なんだ、転校生ってあっちこっち行けて良いよね。あたしなんか  
梅子 生まれてからずっと地元だからさ。転校って憧れちゃうよね。別れたくはない、  
桐子 しかし運命に逆らえず離ればなれになる二人、君のことは一生忘れないよ。あた  
梅子 しも、あなたのこと決して忘れない。そしていつの日かきつと・・・ドラマだわ  
桐子 くらドラマ。わたしは！

梅子 はいはい。  
桐子 そんな良いもんじゃないわよ。ほら遊んでないで。  
梅子 ほいほい。

松代、戻ってくる。

梅子 築60年の割に、あんまり古い資料ないよね。  
竹一 何かの時に整理したんじゃない。

梅子、いつの間にか、昔の本を読みふけていた紅葉を見つけ。

梅子 紅葉い！  
紅葉 ああごめんごめん。ほら、10年くらい前の生徒会誌。この写真、みんなスカ  
桐子 ートくるぶしまであるの履いてる。  
紅葉 ええ、どれどれ。

桐子、覗きに行く。

桐子 本当だ、なっげ、ダッセ！  
紅葉 こんなスカート流行ってたんだ。  
桐子 しかもこれフォークダンス。  
桐子 だっせ！  
梅子 だっせ！  
桐子 だっせ！  
桐子 だっせ！  
桐子 だっせ！  
桐子 だっせ！  
桐子 だっせ！

松代、天井を指して

松代 ねえ、あそこ何。  
桐子 何。

松代 あそこ。  
桐子 ああ、あの凹んでいる所。  
松代 どどこ。

竹一 あそこ。  
桐子 ああ、そういう前から凹んでたな。別に気にしなかったけど。  
松代 ふん、あたし気付かなかった。

梅子 榎男子  
桐子 榎男子  
榎男子

戸みたいの付いてない。  
開くんじゃないの。  
肉体改造、脚立持ってきて。  
榎男！なんで俺が・・・。  
すももに・・・。  
行ってきまゝす！

榎男、脚立を取りに行く。

桐子 紅葉代  
紅葉代 松代  
全員 榎

なんだろうね。  
怪しい感じしない。  
単なる天井うらの点検口だよ。  
ほら、片づけ優先！  
はゝい。

全員下の場所です。片づけ再開。捨てる物と取っておく物に分けていく。

榎男が脚立を持って登場。

榎男

持って来ました。

榎男、脚立を置いてマッスルポーズ。全員脚立に集まって来る。

紅葉 榎  
紅葉 榎

どいて、どいて、じゃああたし見てくるね。  
落ちないでよ。  
大丈夫だつて、だてに図書館長やってるわけじゃないわよ。高い所の本はお任せ。脚立の女王よ。

全員が注目するなか。天井の扉を開ける。上から吊ってある梁の高さに手をかけて戸を開けるふり。戸を開ける音がする。紅葉中を覗く。

紅葉 榎  
榎子 紅葉  
紅葉 榎  
榎子 紅葉

ええ、何ここ！  
どうしたのさ。  
部屋だよ部屋。ハリポッターと秘密の部屋！  
何それ。  
でっかい部屋になってる。誰か懐中電灯貸して。

松代懐中電灯を探し紅葉に渡す。

松代 榎  
榎子 紅葉

はいこれ。  
ロフトになってるの。  
そんな感じ。わゝすっこゝい。  
ちよつと替わつて。

榎、紅葉と替わる。

紅葉 榎  
榎子 紅葉

えゝつ、何この荷物。  
結構一杯あるでしょ。  
荷物って何？

梅子、榎と一緒に脚立に昇り顔を出す。

梅子 榎  
榎子 紅葉

うわゝ、凄いね。こんな所あったんだ。  
あたしもあたしも。

桐子、竹一昇る。

桐 子  
竹 一  
樺 男

へく、忍者が出そう。  
大昔の資料はここに入れたんだ。  
俺も。

他のみんなも次々と脚立へ昇る。

梅 子  
梅 桜  
梅 子  
梅 桜  
梅 子  
松 代

桜、あの荷物どうする。  
うくん、困ったね。  
明日までにあれもかたづけけるの。  
うくん。  
どうせいらぬ物ばかりだって。  
でも・。  
生徒会室だって明日までに片づくかどうか微妙なところなのに。  
どんな資料あるかだけでも調べないと。必要な物あるかもしれないし。  
じゃあ片づけけるのね。

松代、脚立にあがって上から物を降ろそうとする。

紅 葉  
樺 男  
梅 子  
竹 一  
松 代

ええく、無理だって。絶対できないって。  
無理無理無理無理、絶く対無理！  
時間もなしね・。  
じゃ、見なかつた事にしますか。  
あつそう・。

松代、脚立の上から降りてくる。

桐 子  
松 桜  
松 代

ちよつと待って！先祖代々受け継がれてきたお宝があったらどうするのよ。こ  
先祖様を大切にしない崇られるわよ。たくたくりくじやく  
それは大げさだけど調べるだけ調べる必要はあるわね。  
そう。

松代、脚立にあがって上から物を降ろそうとする。

梅 子  
紅 葉  
竹 一  
梅 子  
桐 子  
樺 男  
桐 子

でも、あの量じゃ絶対明日までになんか終わらないわよ。無理だって。  
みんなで頑張つてやればどうにかなるって。  
このメンバーじゃどう頑張つても無理だと思ふな。  
みんなが必死になって働けば何とかなるかもしれないけど。  
何とかならないって。周りみりやわかるじゃない。  
取りあえず上行つて見てみようって、使える物あるかもしれないし。  
全部調べるの大変だって。上から降ろすんだぞ。  
降ろさなくても上に上がって調べれば良いじゃない。

この間、松代は脚立を昇ったり降りたりする。

松 代  
樺 男  
紅 葉  
竹 一

どつちでも良いけどはつきり決めて。疲れるから。  
もう少し時間があれば良いんだけど。  
無理だって。あんなに紐で縛れないってく。絶対無理。  
そうして、忘れられた存在は闇から闇へ消え、永遠に失われるのであつた。  
まあ、しょうがないよね。

みんな片付け再開。

桐 子  
梅 子

あたしだけでも行く！。お願いだから行かせてくれく、二度と手に入らない小  
道具があるかもしれない。予算の少ない弱小演劇部にチャンスをくれく。お宝が  
くお宝がく。  
あるとしても本だけよ。先生も知らなかつたんだから良いんじゃない。

梅 桜  
子

でも、60年間の平岸の歴史が詰まってるかもしれないし……でも間に合わないよ、きつと。

脚立に座っている松代が。

松 樺

泊まり込みでやれば。

松 代

へっ？  
時間がないなら泊まり込んで徹夜でやれば。

竹 松

そんな、学校に泊まれるわけないでしょ。

松 代

じゃあ無理だね。

松 一

そんなに簡単に諦めないでさ。あたし真面目に働くから。

梅 桜

泊まり込みか。

梅 子

桜、無理だつて。先生が許可する訳ないじゃん。

桐 桜

おたけ、あんた学校の防犯システムに詳しくあったわよね。

竹 桜

えっ。

竹 一

この前梅子の家で生徒総会の資料まとめてたとき、夜中にこっそり生徒会室忍

梅 桜

び込んで必要なもの持ってきたじゃない。

竹 一

いや、あれは……

梅 桜

みんな夜中に集まれば何とかなるかも。

桐 桜

さくら。

桐 子

だって、このままじゃ平岸の重要な歴史が捨てられちゃうのよ。

桐 子

そうよ！60年にも及ぶ過去の歴史の重みを考えると、簡単に見なかったこと

桐 子

にしようなんて言えないわ。桜、あたしはあなたに付いていく。わくたくしくわ

桐 子

く、あなたにいく。

桐 子

桐子、ミュージカル調で歌う！

桐 子

あんたは、小道具欲しいだけでしょ。

桐 子

まあね……

桐 子

今の内にここを片づけて、夜中に天井裏片づければきつと間に合うつて。

桐 子

まあ夜中の学校も面白そうではあるわね。

桐 子

あの、俺は。

桐 子

参加に決まってるでしょ！

桐 子

やっぱり……

桐 子

松代は来る？

桐 子

あたしはみんなが来るなら来るけど。

桐 子

あたし参加さ。

桐 子

もうさ。

桐 子

決まりね！おたけ、侵入経路は。

桐 子

しようがないな。まあ、この学校も後3日だからいいか。内緒ですからね。

桐 子

竹一、学校の見取り図を出す。

桐 子

いいですか、平岸高校は午後9時まで定期的に巡回が行われますが、9時以

桐 子

降センサーが起動し無人警備に切り替わります。センサーは玄関、事務室、職員

桐 子

室、準備室に人感センサーが、廊下に赤外線センサーが設置されています。センサ

桐 子

ーに引っかかると、警報がなり、5分以内に警備員が来ます。警備員はシステム

桐 子

を切った後、校内を点検します。

桐 子

樺男、ミッションインポッシブルを口ずさむ。梅子、桜以外全体で唱和。

桐 子

チャララ。

桐 子

わかったから。

桐 子

それで、どうやったらそのシステムをかわせるの。

桐 子

一番簡単なのは、9時の巡回まで警備員に見つからない様に隠れ、機械警備に

桐 子

切り替わる直前に生徒会室へ入る事ですわね。

桐 子

桐子、桜以外全体で唱和。

桐 子

チャララ。

桐 子

わかったから。

桐 子

それで、どうやったらそのシステムをかわせるの。

桐 子

一番簡単なのは、9時の巡回まで警備員に見つからない様に隠れ、機械警備に

桐 子

切り替わる直前に生徒会室へ入る事ですわね。

桐 子

桐子、桜以外全体で唱和。

桐 子

チャララ。

桐 子

わかったから。



桜 9時を回ったら。

竹一 函面を指し。

竹一 外からの侵入経路は二つ。一つは、体育館への渡り廊下。一箇所床が持ち上がる所があります。体育館の床下から渡り廊下の下まで進み、そこから侵入します。もう一つはハシゴで南玄関の屋根に上がり、生物室の窓から侵入する方法です。窓って鍵かかっているんじゃないの。

桐子 黒板側の窓の鍵が壊れています。そこから侵入してください。

桜 確かだった、では3班に分けましょう。

紅葉 なんかわたし、どきどきしてきました。

榊男 廊下の赤外線センサーは。

竹一 赤外線が出ている場所はこことここ。下から20センチと80センチの高さに50センチ間隔で4本連続しています。ここを通るときは赤外線に引っかからない様に頭を下げながらまたいで下さい。こんな感じですよ。

竹一、見えない線 avoider ように動いてみる。

桜

では3班に分けます。私と梅子は機械警備に切り替わる直前に生徒会室になだれ込みます。松代と紅葉は、生物室から侵入。榊男とおたけと桐子は渡り廊下の下から侵入。それぞれ生徒会室へ向かいます。

榊男

何で俺が床下なんだよ。

突然生徒会室に音楽が響き菊代と藤子が以外な所から飛び込む。

菊代

話は聞かせてもらったわ。

藤子 あたし達も協力しましょう。

紅葉 誰。

桐子 なんであんな所から。

松代 秘境探検同好会！

桐子 秘境探検同好会？

菊代 世界の秘境を探検し人類の存在意義を研究、今の世の中に欠けている心とは何か愛とは何かを研究する。会長の秘境レッドー！

藤子 秘境ピンク。

桐子 卑怯者？

菊代 ちがーう！われら秘境探検同好会、探検ジャー！

一瞬の間。

桜 で、さっきの班編制で良いわね。

菊代・藤子 しかとすんなろ！

梅子 あんた達働く気あるの。

藤子 私たちにかかればこんな部屋くらい。

菊代 秘境パワーで一瞬のうちに片づくわ。

梅子 なんかその卑怯ってのが引っかかるわよね。

菊代 秘境パワーを信じてないわね。藤子、そのゴミ箱取って。

藤子 はい。

藤子、ゴミ箱を菊代に渡す。

菊代 いくわよ、秘境パワー！

とって窓からゴミを捨てる。

全員 あっ！

藤子 片づいたわ。

藤 桜 駄目じゃない。  
桜 何が？  
藤 窓からゴミ捨てちゃ駄目でしょ。  
菊 代 あら、何の事かしら。あたしがゴミ捨てたって証拠でもあるの。  
桐 子 おお、卑怯だ。  
全 員 おお。  
梅 子 邪魔するなら出ていきな。  
藤 子 もうちよつとした冗談じゃない！人手欲しいんでしょ。  
梅 子 痛い所つくわね。  
菊 代 働くわよ。  
松 代 あんた達、天井裏行ってみたいだけじゃないの。  
菊 代 ウツ・・！  
松 代 真面目に働くんならあたしの班に入れてあげても良いけど。  
藤 子 愛と平和と秘境探検の為、力を尽くすのが私たちの使命。  
菊 代 秘境あるところ幾千里。  
藤 子 秘境探検同好会。  
菊 代・藤子 探検ジャー。  
桜 わかったから！ちゃんと働くのよ。  
菊 代・藤子 ラジャー。  
樺 男 では全員9時半までに天井裏集合！良いわね。  
全 員 よっしゃ。  
全 員 じゃ、ここ、さっさと片づけるわよ。  
全 員 はい。

全 員、必死に生徒会室を片づける。机とかコンピュータとかを舞台下手にはけ、舞台は段ボールと段ボールに隠れた物だけになる。

桜 終了！段ボールは明日一気に運び出します。時計を出して！現在6時12分35秒です。

全 員 全員時計を合わせる。

桜 例によって君もしくは君のメンバーが捕らえられ、あるいは退学になっても生徒会は一切関知しないからそのつもりで。

全 員 ええ！

梅 子 当たり前でしょ。

全 員 では、9時半集合！

全 員 おお！

全 員 しゅっ！

全 員 (小さな声で) おお！

曲がかかる。全員生徒会室を後にする。照明がブルー転の明かりとなり、吊り物の梁が上から降りてくる。大黒も降りてくる。積んであった段ボールがそのまま天井裏の段ボールとなる。下手舞台前に桜・梅子登場。

桜 警備員は行ったわね、現在8時56分、28秒。後、3分32秒。9時と同時に滑り込むわよ。  
梅 子 オッケー。

桜、梅子、下手に去る。上手舞台前に竹一、樺男、桐子ほふく前進しながら登場する。首にタオルを巻き軍手にヘルメット。

桐 子 何であたしがあんたらと床下から侵入するチームなのさ。  
樺 男 俺はすももちゃんの替わりなんだからさあ、床下から侵入っておかしくない。  
竹 子 適材適所です。  
桐 子 あたしのどこが適材なのさ！

竹 樺  
一 男

俺も俺も！  
ぶつぶつ言わない。

システムが作動している区域に入りますよ。  
全員匍匐前進しながら上手袖に入る。下手舞台前よりはしごを持った松代チームが登場。全員ほかむり（泥棒のやつ）をしている。全員ではしごを横に持って、抜き足差し足でやってくる。

松藤紅菊紅  
代子葉代葉

なんでほかむりすんのよ。  
私たちが誰か解らない様によ。  
でもこれって見つかったとき余計怪しまれるじゃない。  
そうかな、場の雰囲気にはあつてると思うけど。  
静かに、生物室よ。

全員抜き足差し足で、上手花道に去る。入れ替わりに竹一、樺男、桐子が上手舞台袖から、やってくる。全員赤外線ゴーグルを持っている。例の動きで赤外線をクリアしながら下手に向かう。

竹 一

ここです。ちょっとでも触れたらおしまいですからね。

竹一、樺男、桐子の順に進む。

竹 桐 樺 桐 竹  
一 子 男 子 一

あつ、桐子さんもう少し足上げて。頭下げる！気を付けてくださいよ。  
しょうがないじゃない身体堅いんだから。  
演劇部なのに。  
あんたに言われたく無いわね。  
後、少し、急いで！

三人、おっしゃりのポーズと共に曲が終わり、三人下手に去る。  
上手2尺高の台の上が開き、はしごを登って桜が出てくる。桜は頭にヘッドライトを付けている。

梅 桜  
子

やっぱ暗いわね。  
桜、早く上がって。

桜、扉から出てくる。梅子の頭が扉から出てくる。梅子もヘッドライトをしている。

梅 梅 桜  
桜 桜 子

気を付けてよ。暗いから。  
しっかし、こんなに資料あるのに誰も覚えてなかったんだね。  
ちゃんと引き継ぎされてないと思うなのよ。  
電気ないの電気。  
さあ、天井裏だからね。

桜、段ボール箱を一つ開けてみる。

梅 梅 桜  
桜 桜 子

昔の生徒会誌ね。  
みんな来てからでいいって。  
でも、早くやらないと終わらなかつたら困るし。  
食べる？

梅子、ポッキーを出す。

梅 梅 桜  
桜 桜 子

サンキュー・・・何これ、チョコレートじゃないの？  
黄粉味。  
黄粉味・・・ふん。最近ポッキーも色んな味あるよね。  
苺味でしょ、黄粉味でしょ、パイナップル味、ブドウ味、わさび味・・・

梅 桜 わさび？そんなのまであるんだ。  
梅 桜 多分ね。生き残るためには日々新たな味を求めて前進あるのみよ。  
梅 桜 変わらない事が価値につながる事もあるのにな。  
梅 桜 プリッツ。

梅 桜

はい、

梅 桜

それはプリッツ！

梅 桜

ああ、プリッツね。でもプリッツもトマトプリッツとかキノコピザプリッツ

梅 桜

とかプリッツこんがりチキンとかあるよ。

梅 桜

ええ！プリッツって塩味とサラダ味だけじゃないの。くそ、プリッツのくせ

梅 桜

窓に暗幕貼ってあるから大丈夫だとは思うけど。

梅 桜

梅子、入口近くに電気のスイッチがあるのを見つけ。

梅 桜

これ電気のスイッチじゃないの。梅子、スイッチを入れる。舞台全体が明るくなる。

梅 桜

ほら、点いた。

梅 桜

じゃあ、下の明かり消してくるか。いいよ、私行って来るから。

梅 桜

梅子、下に降りる。

梅 桜

・・・こんなに一杯あったんだね。60年の思い出か・・・。

梅 桜

桜、プラカードを見つめる。桜プラカードを持って。

梅 桜

それでは北北海道代表平岸高校の入場です。おお、入場曲は松山千春ですか。

梅 桜

松山千春を歌う。使いフルされたバットを発見！『ちやちやく、ちやら

梅 桜

ららく』と歌いながら打つまね。

梅 桜

学生帽だ。うほっホコリだらけ。

梅 桜

桜、寛一お宮をやる。

梅 桜

何か楽し、学校の思い出が一杯だ。

梅 桜

昔使っていた校旗を見つめる。

梅 桜

何これ、おっ校旗だ。うわ、ボロボロ。うっす。平岸高校応援歌。

梅 桜

桜、平岸高校応援歌を歌う。(適当に)。梅子登場。

梅 桜

・・・何やってんの。

梅 桜

あつ、いや、何か色々あるなって・・・じゃあ始めますか。

梅 桜

みんな来てからで良いよ。

梅 桜

でも早く始め・・・あ、バイオリン。

梅 桜

桜、校旗の下にあったホコリを被ったバイオリンを見つめる。

梅 桜

桜バイオリン弾けるの。ちよっとね。

梅 桜

桜、バイオリンを弾いてみる。

梅 久しぶりにさわった。やっぱ続けてないと駄目だわ。  
桜 そんな事ないって、結構弾けてたじゃん。  
梅 小学校の時、ちょっと習ってただけだからね。すぐやめちゃったし。習い事が  
梅 長続きしないのは転校生の宿命かな。  
桜 さあ、何かの記念に置いていったんじゃない。  
梅 みんな大丈夫かな。  
梅 今のところ警報になってないから大丈夫だと思うけど・・・え、何、これ、可  
愛い。

桜、バイオリンを置きに行って、小さな手作りのバイオリンケースを見  
つける。中には「屋根の上のバイオリン弾き」最優秀賞受賞記念と書いて  
あり、縫いぐるみが入っている。

梅 何？  
桜 バイオリンケース。

桜、バイオリンケースを開ける。

桜 縫いぐるみ・・・。

梅子、ケースを見る。

梅 最優秀賞受賞記念「屋根の上のバイオリン弾き」。  
桜 屋根の上のバイオリン弾き・・・演劇部かな。

梅子、一緒にあった賞状を見る。

梅 クラス演劇。

梅 クラス演劇なんてやってたんだ。

梅 クラス演劇って何か燃えるよね。一丸となってクラスみんなの思いで創り。お

お、青春や、青春やで。

梅 何、桐子になってんのよ・・・クラスみんなの思い出か・・・。

桜は屋根の裏のバイオリン弾きだね。

梅 何言ってるんだか・・・さっ始めるわよ。

桜、段ボール箱を開ける。梅子も手伝う。

梅 昔のアルバムだ。こんなのも生徒会室にあったんだ。

桜 こっちは学校祭実行委員会のファイルみたいよ。ファイヤーストーム及びフォ

ークダンス実施要領。

桜、のぞき込む。

梅 結構細かくやってたんだ。今なんか何となくその場の流れに任せてるもんね。  
桜 前の学校はどうだった。

梅 何が。

梅 学校祭。

梅 うーん、そこそこかな。一年生だったし半年しかいなかったから良くわかんない

桜 いけど、こことあんまり変わんないよ。

梅 そうか、うちの学校祭、来年どうすんだらうね。校舎新しくなっても今まで通  
りできるのかな。

桜 さあ、新執行部が考えるでしょ。

扉が開き、桐子が顔を出す。

桐 子  
桐 桜  
桐 子  
桐 子

あれ、明るいじゃん。電気点くんた。  
お帰り。  
ただいま。  
大丈夫だった。  
もう、結構大変だったんだから。床下は泥だらけだし、廊下で赤外線につっかかりそうになるし。  
早く上がってくれよ。  
・・・あ、ごめんごめん。

桐子、天井裏へ上がる。続いて竹一、樺男が上がってくる。

竹 子  
梅 子  
竹 子  
梅 子  
樺 男  
梅 子  
梅 子  
梅 子

他のみんなは。  
まだよ。  
センサーに引っかかったとか言わないよね。  
大丈夫だとは思うけど。  
あ、！  
何。  
どうしたの。  
俺の大事なすももちゃん鉢巻きが破れてる。くそ、床下なんかとおるから。  
殺す！  
まあまあ。

下で音がする。

しっ！

はしごの下から声がする。

菊 子  
梅 子  
菊 子  
梅 子  
菊 子  
梅 子  
菊 子

山。  
はい？  
山。  
山？  
や、ま！  
山田花子。  
もう、解ってないわね・・。

菊代、藤子、松代、紅葉登場。

梅 子  
菊 子  
松 子  
藤 子  
菊 子  
梅 子  
菊 子

なんでほっかむりしてんのよ。  
見つかつたときやばいじゃない。  
その格好の方が見つかつたとき言い訳できないんじゃない。  
まあ確かにそうだけど、気分ね気分。  
ああ、すっごーいなんか秘密基地みたいね秘密基地。  
秘境探検隊にはもってこいな感じがするわね。もっと早く知っていれば部屋に生徒会室の上よ！しかも同好会でしょ。  
何でうちには変な同好会ばかりあるんだろう。  
生徒の自主性を育てるため。同好会促進法で部活動には顧問が必要だけど、同好会は3人集めれば生徒だけで立ち上げられるからじゃない。  
毎年4月に二桁の申請がありますよ。今年も、忍者同好会とか、男一匹同好会とか、萌クラブとか。

竹 子  
樺 子  
竹 子  
樺 子  
竹 子  
樺 子  
竹 子  
樺 子

それもフアンクラブとか。  
それは認められてません。  
何で、何で認められないの。3人以上いるぞ。  
文化活動や体育活動として、意義のあるものでなくては同好会設立の要件を満たしません。



桐子 さわりだけでも。  
桜 もう、しょうがないわね。

桜、ちよっと弾く。

全員 おお。

桐子、バイオリンを指し

桐子 これ、もらって良い。  
桜 全部見てから。

は。

何これ、『俺が黒って言ったたらカラスも黒だ！』第10代生徒会長竹ノ内権蔵。  
・・ただの馬鹿じゃないの。

藤子猫の被り物を発見する。

藤子 あ、見てみて、うニヤ〜！！

ふうー！

うニヤニヤ？

にや！

ニヤ〜ン！

あんた達何やってんの。

猫語で会話。

梅子 ちゃんと働け！

藤子・菊代 へ。

まあまあ。

でもこの荷物、どれ捨てて、どれ取っておくんだ。

だからいらぬものを捨てて必要かなって物を取っておくのよ。

いらぬものって。

トーナメント表とか『カラスも黒だ！』とか猫の被り物とか・・。

にや。

捨てるかどうか微妙な物は。

わからなかったら桜に聞いて。

もうあきた！あたしちよっと探検行ってくるわ。

あたしもあたしも。

ちよっと！

秘境ある所、探検せずにはいられない。我ら。

菊代・藤子 探検ジャー！

じゃあ屋根裏探検に行ってきたま〜す！

ちよっと！

菊代、藤子舞台奥から下手に去る。

松代 なんかさあ、片づけるって言うよりよけい散らかしてない。

でも開けないと何入っているかわからないし。

さっきからあんまり良い物出てこないし、本ばかり。紅葉！あんたまた読み

ふけってるし。

あ、ごめんごめん。本が出てくるとつい読んじゃうんだよね。

で、どれ捨ててどれととくの。

本関係は一応取っておこうかと思うけど。

これも？

昔の教科書を出す。

桜 何それ。



紅葉 古い教科書、多分置き勉。  
梅子 さんのいらぬに決まってるんじやん。  
松代 桜は箱開けないで、みんなが持つてきた物を捨てるかどうか判断する。捨てる物はこっち、取っておく物はこっち。  
梅子 桜、これどうする。

梅子、古いファイルの入った段ボール箱を持つてくる。  
梅子、古いファイルの入った段ボール箱を持つてくる。  
梅子、別の荷物の所に行く。  
梅子、別の荷物の所に行く。  
梅子、別の荷物の所に行く。  
梅子、別の荷物の所に行く。

梅子、別の荷物の所に行く。

梅子、別の荷物の所に行く。

榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。

榊男、段ボール箱を持つてくる。

榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。

榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。

榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。

榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。

榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。  
榊男、段ボール箱を持つてくる。

榊男、段ボール箱を持つてくる。

竹一 しっ、警備員が来ます。  
桜 電気消して！

電気消える。警備員二人が下手花道におそろおそろ出てくる。

警備員① センサーに引っかかったのはここか。

懐中電灯で客席方向を照らす。

警備員② 何もありませんよね。

警備員① 荒らされた形跡は無いようだけど・・・。

警備員② 先輩、俺暗い所駄目なんすよ。しかもこの学校の裏は墓場じゃないっすか。何出るかわかりませんよ。

警備員① 馬鹿いってんじゃねえよ。今の時代お化けなんかでねえよ。俺を見てみる俺を、この自信にうち満ちた俺を！

警備員② 先輩、さすがすね。心強いっす。

ロフトで桐子が粗相をして、音を出してしまっ。

警備員② いっ今音しませんでしたか。

警備員① 気のせいだって。気のせい。

警備員② 気のせいじゃありませんよ。

警備員① ばっ馬鹿ったれえ、気のせいだ、気のせい。

警備員② 先輩、怖いんすか。

警備員① なっ何言っつんだか。怖いわけねえだろ。

桐子、周りから大ひんしゆくを買う。松代、マイムで藤子に猫の鳴き声をやれと指示。

藤子 にゃん。

警備員① 猫か。

警備員② 猫・・・ですね。

藤子 うにゃん。

警備員② なんか色っぽい猫ですね。

警備員① 猫だ猫。古い建物だから猫くらい入るって。

警備員② 猫ですよ、猫。

警備員① なあ、ビクビクしてると何でも無いものでも怖く感じるんだよ。

警備員② 先輩！学びました。

警備員① しかし、一週間後には壊すんだから、警備する物だって殆どないのにな。

警備員② そうっすね、夜中まで警備しなくても。

警備員① 携帯電話で会社に電話する。

警備員① あっ、田村です。異常はありません。多分猫です。

警備員② 猫です。

警備員① ・・・・はい・・・はい・・・何せ古い校舎だから、猫が入り込む隙間くらい

あるかと・・・。

警備員② 猫ふとし、猫ふとし！

警備員① はい・・・はい、了解しました。・・・一応、校舎全体回ってから戻ってよ。

警備員② ラジャー！

警備員① ひろしだろうが・・・。

警備員② あっ・・・。

警備員①②、下手花道に去る。

桜 桐子何やってんのよ。

桐子、菊代に羽交い締めにされ。藤子の猫パンチが炸裂！

桐子  
藤子  
桐桜子  
菊代

ごめんって、でも警報鳴らしたのはあたしでは・・・。  
うにゃ？にゃん。  
にゃんじゃない、にゃんじゃ。  
何してたの。  
ちよっと食料調達に。

菊代、袋からお菓子を出す。

菊代  
竹男  
梅子  
菊子  
梅子

職員室行って先生方のお菓子ちよっと頂いてきたわ。  
おおう、カカロ99%のチョコだ。  
あ、知ってる。まずいんだこれが。  
プリッツ。  
へっ。  
それ！プリッツこんがりチキン味。

梅子、菊代からプリッツを奪い粉々にする。

梅子  
梅桜子  
梅代子  
松代子

邪道じゃー、プリッツのくせにこんがりチキン味だと、邪道だ。  
梅子、落ち着け。まだ校内に警備員がいるかもしれないから。  
ふっ。  
なんだか全然片づかないね。ちよっと休む？  
もう、わかった、みんなはちよっと休んで、あたしは資料分けるから。

全員お菓子を食べながら休憩モード。

竹一  
竹桜一

俺、プレイヤー持ってくるわ。  
気を付けるのよ。  
大丈夫、探検ジャーとは違うから。

竹一、下に降りる。他のみんなはお菓子を食べながら。

紅葉  
菊桜代  
梅子  
榊男子  
松代子  
桐子

でもさあ、ここ何で誰も知らなかったんだろ。  
何処かで引き継ぎし忘れたのよ。普段使う物じゃないからね。  
それにしてもトーナメント表まで取っておくか普通。  
そのときの生徒会が何か考えてたんでしょ。  
他の資料しまうときに紛れただけじゃないの・・・あ、それ、柿の種ちようだい。  
カラスも黒だったのは。  
それはわざとだね。10代目会長の自己顕示欲だね。  
そいつ今なにやっぺんだらうね。

竹一、プレイヤーを持って上がる所で。

竹松  
竹松  
竹松  
竹松  
竹松

おたけ、パソコン持ってきて。  
ええ、何で。  
いいから。  
もう・・・。

竹一、プレイヤーを置いて下に去る。

藤子  
松代子  
藤子  
菊代子

10代目って事はもう60越えてるにゃ。  
あんた、『にゃ』って気に入ったんでしょ。  
にゃん。  
もう死んでるかもね。

紅松代

自己顕示欲の強い奴は自分のHP持つてるから。インターネットで探せばある。ふくん。

竹一、ノートパソコンを持って来る。

竹松代 竹松代 竹松代

どうするの。  
ネットケーブルに繋いで。  
天井這ってるやつ？線を加工すりやできないことはないけど。  
じゃあやって。  
もう・・・。

梅藤子 梅藤子 梅藤子

食べ終わったら片付け手伝ってよ。  
へい。ほら再開するよ。  
まだ食べてるにやう。  
ほれ。  
にやう。

全員、片付け再開。

紅葉 紅葉 紅葉 紅葉 紅葉

何でこんな物まで取って置いたんだろ。  
捨てられなかったのよ。  
えっ。  
自分じゃ捨てられなかったのよ。思い出だから・・・。  
持って行けば良かったのに。  
学校と一緒に事が大切なのよ。思い出の品は思い出の場所にね。  
この鍋も？  
そっ・・・その鍋も器も権三も、あたし達にはどうでも良い物だけど、置いていた人にとっては大切な思い出だったのよ。・・・バイオリンも・・・みんなの思い出があつて残されたのよ。  
これが思い出の品ね。

竹一がケーブルをいじっていると警報が鳴る。

松竹代

お竹何やってるのよ。  
いや俺なにもやってないけど。

すもも、登場。

すもも 全員 榊男 榊男 榊男 榊男 榊男

わう、スゴイ秘密の小部屋ね。  
すもも！  
L・O・V・Eラブリーすもも！・・・すももちやくん。  
すももに内緒で集まるなんてずるい。  
あんたどうやって来たのよ・・・。  
普通に、玄関開いてたし。車があつたけど。  
普通になって・・・。  
榊男が学校から動いてないから何かあるかなって。  
へっ？

すもも、榊男の首に掛かっているすもも人形を取る。

すもも 梅子 榊男 榊男 梅子 梅子

すももGPS！  
あうっ、どうしてうちの学校は変な奴ばかりなんだ！  
すもも知らなくない。  
すももちやくんは悪くないっす。世の中が悪いんす世の中が。  
もうなに言ってるの。  
権蔵くお前かくお前のせいかく！  
梅子・・・。

警報が止む。

桜 電気！

梅子、電気を消す。警備員下手花道に登場。警報が鳴りやむ。

警備員① なんだよ。帰る所だったのに。

警備員①の携帯が鳴る。

警備員① はい、システムは切りましたが・・・はい・・・多分猫がまだ校舎内にいるの

だと思いますが・・・はい・・・えっ・・・わかりました・・・はい。

警備員② 先輩どうしたんですか。

警備員① 猫捕まえて、追い出せよ。

警備員② 捕まえるってどうやって。

警備員① そんなのわかるわけないだろ。

警備員② 猫って・・・化け猫じゃないですよ。喰われたりしませんよね。

警備員① お前まだそんなこと言ってるのか、そんな訳ないべさ。

警備員② だって裏は墓ですよ墓。

警備員① だからなに。

警備員② 先輩、そう言えばさっきトトロの影みたいなの見えたんですよ。

警備員① トトロ？

警備員② はい、トトロっぽい影。やっぱり化け猫じゃ。

警備員① トトロと猫と一緒にすんな！。

警備員② 先輩、ジブリファン？

警備員① だったら何。

警備員② いえ別に・・・。

その間に藤子と桐子は屋根裏から降りる。袖から猫の鳴き声がする。

藤子 にゃん、にゃん。

警備員① やっぱ猫だべさ、普通の猫、普通の。

警備員② 普通の猫ですね。どうやって追い出します。

警備員① まずは居場所確認だべ。

藤子 にゃん、にゃん。

お化け登場の音楽がなる。

警備員② せっ先ぱんい、なっ何か聞こえませんか。

警備員① な、何にも聞こえねえ！俺には何にも聞こえねえぞ！

藤子、猫のかぶり物で警備員の後ろに回る。

藤子 ふぎゃー！

警備員腰を抜かす。藤子素早く下手に去る。

警備員② 先輩みつ見ましたか。でっでっかい猫！

警備員① みっ、みてねん、おら、何も見てねん。

桐子、猫耳付けて警備員の後ろに立つ。

桐子 みぎゃん！

警備員① ぎゃん、化け物だん！

桐子 みぎゃん！

警備員①②花道から逃げるように去る。桐子、後を追う。藤子、屋根裏に戻る。

藤子 追っ払ってきたにやん。  
榊男 恐怖の効果音レコード役に立ったでしょ。  
竹一 警備システムは切ったままみただな。  
すもも みんな大変なのね。じゃ、あたし帰るから。  
全員 へっ？

すもも 夜遅いの美容に悪いし。榊男、しっかり働くのよ。  
榊男 うっす。L・O・V・Eラブリーすもも！  
すもも じゃあね。

すもも、愛を振りまきながら下に去る。榊男、去っていくすももに向か

榊男 全部喰ってった。  
榊男 もう、こんなんじゃ、終わらないわよ。  
榊男 やっぱり見なかったことに。  
榊男 駄目！  
榊男 ですよね。

桐子、屋根裏へ上がってくる。

桐子 化け物だつてさ！なんか失礼よね。  
竹一 警備員は。  
桐子 車に乗って逃げた。  
梅子 ひとまず安心して事ね。  
竹一 じゃ、片付け再開！

全員、片付け再開

この鍋捨てて良いのかな。  
良いに決まってるじゃん。  
でも捨てられなかったんでしょ。  
捨てられなかった思い出か。  
・そういえばあたし、小学校の100点のテスト取ってあるな。  
あゝあたしも、もう二度と取れないからね。  
どうでも良いものだけどね。  
あたしは公園で拾ったガラスのかけら取ってある。捨てても良いんだけどね。  
いざ捨てるとなると。

俺、壊れたミニ4駆。もう走らない。  
俺、10年前のジャンプ。  
それは掃除してないだけじゃ。  
あたしはウサギの縫いぐるみ。今も一緒に寝てる。  
えっ！（似合わん）  
何よ！

藤子 あたしは幼稚園のお遊戯で使ったタヌキのお面取ってある。  
桐子 初舞台の記念だからね。  
榊男 あたしは恋を捨てた替わりに拾った貝殻。  
竹一 みんな結構くっだらな物取ってあるんだ。  
梅子 なんか捨てられないんだよね。

桐葉子

紅葉

桐葉子

紅葉

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

桐葉子

だからあんたは掃除してないだけじゃ。

折り目の付いた折り紙。

折り目の付いた折り紙？

一度折った折り紙のばしてアイロン掛けて何回も使ったんだ。折ってはのばし

折ってはのばし。折れ線が一杯ついたやつ。他の人にはただのゴミかな。

生きてきた証だからよ。

生きてきた証か。

そつ、自分が生きてきた証。

そんなカッコイイものじゃないけどね。

桜は。

えっ。

桜の捨てられないもの。

うん。

桜は転校して歩いてるんだから捨てられない思い出も沢山あるんじゃないの。

うん、おきやが津軽サいだ時は、津軽の思い出がうってりありしたし、土佐

に往きいた時は、土佐での思い出がごじやんとありした。広島での思い出もよう

けありしたんじゃ。

すっげえ。あたしもあっちこっち行ってみて。ある時は、津軽弁、ある時は

土佐弁そしてある時は広島弁、日本全国の方言を使い分ける女、その正体は・

道産子転校生桜！かっちょい！

なんじゃそれ。

友達も全国にいるんでしょ。いいな。

そんなに良くないって。どこもほんの少し居ただけだし……。

で、桜は何が捨てられないの。

うん、すぐには思いつかないな。

なんか、ここにある物、捨てにくくなっちゃうね。

そうだね、でも捨てないと片付かないしね……。

……取っておく。

これ全部？

また段ボール箱に戻してさ。そのまま新しい校舎へ持っていけば良いじゃない。

でもなくせつかく分けたのに。

取っておこうよ。何か捨てられる物が可哀想になってきた。

取って置くかあ。

秘境。パワーで運んであげるわ。

窓から投げたら駄目だぞ。

そんなことしないにゃん。

じゃあ、箱に戻すか。

おおう！

駄目！

桜。

捨てます！

桜・新校舎にだって少しくらい置く場所あるって。

捨てます！取っておくのはこっちの物だけ。

桜だつて、あたし達にはどうでも良い物だけど、これを置いていった人達にと

つては大切な思い出だつて言ったじゃない。生きてきた証だつて。

これを置いていった人達はもういないの。校舎もなくなるし、鍋も器もこの校

舎と一緒に思い出。校舎が無くなるとき一緒に捨ててあげなきゃ。取っておいて

も邪魔者扱いされるだけよ。鍋も器も置いていった人の心の中で生きてる。だか

ら捨てても大丈夫。

じゃあ取っておくのは。

学校の思い出。

これは平岸高校の思い出じゃあないのか。

榊男、『俺が黒って言ったたらカラスも黒だ』の額を出す。

桜 第10代生徒会長が学校に居た事は平岸高校の思い出。でもその額は第10代生徒会長の思い出。  
おろ。

桐 学校が生まれてから今までの思い出は取っておかなきゃ。学校が続く限りね。なんか難しくて良くわかんないけど、あんた色々考えてるんだ。  
桐 まあね、楽しかった思い出も哀しかった思い出も。思い出の品は自分が生きてきた証。それがあるから先に進める。  
桐 そうか、タヌキのお面が今のあたしを創ってるんだ。  
桐 思い出の品って何にでもあるのかな。

桐 地球にも。  
桐 地球にも。  
桐 化石・恐竜の化石は地球が思い出に取っておいたんじゃないか。  
桐 おろ。

全 ピラミッド。  
全 あゝあ。(はいはいって感じ)  
全 ナスカの地上絵。  
全 おろ(あゝ、あるあるって感じ)

全 平岸がなくなったら。とっておいた物はどうなるんだ。  
全 全てが捨てられ、そして忘れられる。  
全 なんか哀しいね。  
全 まっ、そんなものよ。なくなったらそれでおしまい。ほら、片付け片付け。  
全 しょうがないわね。あたしの思い出も、あたしがいなくなったらただのゴミだもんね。すぐに捨てられる。そしていつの日かあたしの全てが忘れ去られるか。  
全 なんか整理して取っておいてもしょうがない気がしてきた。どうせいつか捨てられて忘れられるんだし。

紅 永遠に忘れられないものなんてないわよ。  
紅 でも、永遠に忘れない、なんて恋愛小説で良くあるじゃない。  
紅 あゝあるある。『君のことは一生忘れないよ、ハニー。』っていうやつ。  
紅 現実はそのなにごくなくないって。あたしなんか転校生だからさ、しゅっちゅう忘れられてきた。半年もしたらこの写真の子誰だったっかって感じね。もう忘れられる事に慣れちゃった。

梅 そんな、そんなに簡単に桜の事忘れてないって。  
梅 うゝん、でもどうせいつかは忘れられるんだって。ポイツってね。早いか遅いかだけの話よ。  
梅 じゃあ、そこにある物なんで取っておくのさ。  
梅 今は取っておいてあげなきゃ、学校が生きてきた証。先に進むには必要なものよ。

梅 でもいつか捨てちゃうんでしょ。忘れられちゃうんでしょ。あたしさ、哀しくなってきた。あたしならなんで生きてるんだろね。どうせすぐ忘れられるのね。  
梅 あんた極端だから。  
梅 すぐって、後60年くらいは大丈夫なんじゃないの。  
梅 あんた、あたしの事忘れない。  
梅 ごめん自信ない。  
梅 最低。

梅 俺が永遠に忘れないのはすももちゃんだけさ。  
梅 マッスルポーズ。

松 すももの方はどうだか。  
松 有名になれば。歴史に残る様なかい事すれば。  
松 あんたにそれ出来る?  
松 できん。  
松 なんか暗くなっちゃったね。



桜、バイオリンを弾く。

全  
桜  
員

屋根の裏のバイオリン弾きでした。・あたしき、また転校するんだ。えっ。

紅  
桜  
葉

あと半年ちよつとなのに。卒業まで居れば良いじゃない。親はそれでも良いって言ってるんだけど。

桐  
梅  
子

だったらいれば良いのに。桜、平岸が最後の転校先だっかってたじゃない。卒業まで平岸に居るっていつてたのに。

桜

ずつと一緒だったから。家族と、あっちこっち転校して歩いても家族はずつと一緒だったから。大学行けばどうしても離れる事になるし、高校卒業までは一緒に居ることにした。行く前に平岸で出来ることをきちんと片づけてから行きたかったんだ。ここにある物も、あたしがいる内に見つかったのは、あたしに片づけてって言うてる様な気がしたから。・・・

桐  
子

あたし手紙書くから。絶対忘れなから。半年なんかで忘れなから。手紙書き続けるから。右手折れるまで書くから。

桐  
桜  
子

いいよ無理しなくても。無理なんかしてない。

バイオリン教えてくれた先生もあたしの事忘れてた。あたしは楽しくて一生懸命やってたんだけどね。一緒に習ってた友達にも、なんかこの人見た事あるよね。感じて見られたし。・短い間だったしね。風みたいなものよ。吹いた瞬間は感じてもらえるけど。すぐに忘れられる。覚えていてはもらえない。転校生の宿命ね。

梅  
桐  
子

・桜・桜のことそんな簡単になんて忘れなから。あたしは忘れなから。

桐  
桜  
子

みんなそう言ってた。忘れなからって、別れるときみんなそう言ってた。でも手紙なんか半年もしたら誰からも来なくなつた。

桐  
桜  
子

私は書き続けるから、ずつと書き。・・・ やめて！・・・いいの忘れられるのに慣れてるから。いつもそうだったから。あたしの思い出は、あたしだけの思い出。遠足も学校祭も楽しい思い出も哀しい思い出もあたしだけの思い出。

桜、バイオリンケースを手にする。

桜

屋根の上のバイオリン弾きはみんなの思い出。屋根の裏のバイオリン弾きは私だけの思い出。・・・それでいいの。

桐  
梅  
子

でも。・・・ 忘れなからと言わないで！

・・・桜。わかった、特別な思い出作る。一生忘れられないトラウマになるような思い出。桜もあたし達も一生忘れなからトラウマ作る！みんなのトラウマ！肉体改造！手伝え。

榊  
男

榊男だつて。

桐子、榊男下に降りる。梅子、下に降りていった桐子に向かって。

梅  
子

ちよつとトラウマって、あんた意味わかってんの。桐子、ちよつと桐子

桜

あ、あ行つちやつた。何するんだか。・・・桜。・・・ごめん。大丈夫だから。

桜、片付け再開。竹一、ネットに接続完了。

松  
竹  
代

繋がったよ。ようやく繋がったか。

松代  
梅子

松代、パソコンに入力。  
たけのうち・・・ごんぞうと。  
ごんぞう。

松代、インターネットで検索する。

松代  
紅葉  
紅葉  
紅葉  
松代

これじゃないの。  
マーメー株式会社社長。  
何している会社なの。  
大豆輸入。  
それでマーメー株式会社・センスなうい。  
平岸高校卒業生の諸君！私は第10代生徒会長長竹ノ内権蔵である。私が今あるのも平岸高校で生徒会長としてリーダーシップを学んだからだ。今年平岸高校は校舎改築で私が学んだ校舎は無くなるが、これからも平岸高校が私の様な素晴らしい人物を生み出す学校であり続ける事を望む。『俺が白って言ったら豆腐も白だ！』  
人間、幾つになっても変わらないな・・・。

梅子

桐子、榊男戻ってくる。二人はチェーンソウと丸ノコを持っている。

榊男  
桐子  
全員  
桐子  
梅子  
榊男

榊男、行くわよ。  
はいよ。  
何するのよ。  
壁ぶち抜く。  
はい。  
壁ぶち抜く！こんな暗くて狭い所にいるからみんな気が滅入るんだ。屋根裏部屋に小窓はつきものじゃ。榊男やるよ。  
おお。肉體改造同好会の底力見せてやる。  
ちよつと、いくら何でもやりすぎだつて。  
大丈夫、週間天気予報で今週末まで晴れだつて言つてたから。  
そういう問題じゃなくて。  
トラウマになる思い出作るんだ。  
だからトラウマの使い方違つて。  
あたし達、どうせ忘れられる存在かもしれないけど、居なくなつたら忘れられない。ここにいるみんなが忘れない。そんな思い出作るんだ。みんなのトラウマにするんだ。桜のトラウマにするんだ。屋根の裏のバイオリン弾き！  
桐子さすがに壁に穴開けるのはまずいって。  
だつて・・・。  
いいんじゃない。どうせ壊すんだし。  
松代。

桐子  
梅子  
桐子

どうせ壊すんだし。思いっきりやつちやええば。  
夜中にこんな所にたむろしている悪い子ちゃん達だしにや。  
こんなのありました。

松代  
桐子  
梅子  
松代

松代、100tハンマーを持ってくる。

竹代  
桜一

みんなちよつと待つてよ。  
ドリルもここにあるよ。  
そんな事したら、みんな処分されちゃう。

一瞬の間、藤子、菊代突然榊男のチェーンソウに取り付く。

藤子  
菊代

榊男、駄目よ。そんなことしちゃ。  
やめて榊男君。駄目だつて。

榊男 邪魔はさせない・・・ってちょっとお前ら何してんだよ。あっ危ない、危ないって。

藤子、菊代、チェンソウを動かし始める。

藤子 榊男君！駄目だって！公共物破損で捕まるにや。やめて。

菊代 榊男 俺はやってないって、お前達がやってるんだろ。

菊代 何を言っている。我々は止めようとしているだけだ。たとえ壁に穴が開いても

藤子 私たちはそれを止めようとした。

全員 私たちに責任はいや。全ては榊男がやったこと。

おろ、卑怯パワ。

榊男 チェンソウ一度止まる、切断する場所を変える。

榊男 だから離せって。

榊男 みんな、やるよ、全ては榊男が被ってくれるって。

何！

松代 ほら、写メ取ってすももに送ってやるから。

榊男 ・・おっしや。俺に任せな。

おろ

再びチェンソウがうなる。榊以外全員様々な物を使って壁をぶち破ろうとする。

榊 駄目！みんな、やめて！

全員の動きが止まる。

全員 ありがとう。

榊 ありがとう。でももう、やめて。これ以上やるとみんな学校辞めさせられちゃうかも。だから、やめて。

桐男子 大丈夫だって、榊男が全て被ってくれるから。

榊 やっぱマジなお。駄目、みんなにそんな事させない！

榊、紅葉から100tハンマーを奪う。

全員 榊！  
榊 あたしがぶち抜く！

榊が壁に向かう。ハンマーで壁をぶち破る音。そして壁が崩れる音がする。

松代 落ちる。

みんな、よける。壁が落ちる音と共に、ホリゾントの大黒が飛びホリに満点の星が浮かぶ。みんなしばし、星空に見とれる。

梅 桜  
全 員

初めて書いた丸。  
えっ……。  
初めて書いた丸。あたしが捨てられないもの……がたがたで全然丸くないけど……丸。捨てちゃえば良かったのに、取ってあった。取っておいでもしようがないのに……あんたが初めて書いた丸って……母さんが取っておいだ。あたしの思い出……いや、母さんとあたしの思い出。どんなに時が経っても捨てられない……初めて書いた丸！

紅 葉

あたし達さ、ちよっぴり生きてすぐ忘れられる存在かもしれないけど、思いは受け継がれていく。

桐 子

君がいたから僕がいた。桜、トラウマになった？  
なった。すっかりなった。

松 子

歴史に名を残すその他大勢になる。  
はあ？

松 子

歴史に名を残すその他大勢になる。  
その他大勢って、名前ないじゃない。

松 子

歴史はそのその他大勢が作っているんだ。一瞬を生きるその他大勢の思いが。ほんの一瞬でも、あたし達は地球の思い出。

梅 桜

あたし達の思い出が地球の思い出を作る。  
私の思い出。

紅 葉

初めて書いた丸。  
学校の思い出。

菊 代

お馬鹿な生徒会長がいた。  
お馬鹿な肉體改造もね。

竹 子

地球の思い出。  
恐竜の化石。

紅 葉

誰かが作ったピラミッド。  
誰かが書いたナスカの地上絵。

松 子

宇宙の思い出。  
地球。

梅 子

太陽系。  
銀河系。

藤 子

アンドロメダ。  
忘れられない。絶対忘れない。

この瞬間も地球の思い出。屋根の裏のバイオリン弾き！

全員微笑む。

全 員

片づけようか。  
おおう。

『高校3年生』がかかる。全員、荷物を下に降ろしたり片づけ始める。梅子が桜にバイオリンを渡す。流れ星が流れる。流れ星に気付く桜。桜、星空を見上げ、微笑む。みんなと一緒に片づけ始める。音楽の中

幕

ネットに繋ぐ。HPにつながる。自分の学校が壊される事が書いてある。さみしいけれど  
しかたない。  
資料の整理をしながら。捨てられない物ってあるよね。自分が生きてきた証。でも他人に  
はどうでもいいのよね。なんで捨てられないんだろ。でも自分がここ離れたらなくなっ  
ちゃうのよね。思い出だけが残るのだ。でも捨てられないよね。学校の思い出、楽しい事ば  
かりじゃないけど、60年分の生徒の思い出、捨てて良いのかな。  
自分たちは何のために生きているんだろ。100年のたてば誰も覚えてないのね。自分  
が居た痕跡も何もかも無くなるのね。ね、桜はみんなは転校生じゃないけど、あたし  
は転校生だからすぐに忘れられるの

資料を整理して、ケジメを付けてからから転校したい。でも捨てるツテ事ですよ。

紅葉  
もく、なんでもかんでもとっておかないでよね。  
捨てられなかったんでしょ。何となくわかる。

藤子、

桐子別な物を探しに行く。

梅桜  
あたし達が今ここにいるから、次がある。  
過去があるから今あたし達がここにいる。  
でもすぐに捨てられちゃうのに何で取っておくんだらうね。

紅葉  
ここにある物の今の私たちに取って何も価値ないもんだよね。  
でも捨てられなかったんだよきつと。

藤子  
あたし達が居なくなれば意味のないものなのね。  
でも生きている間は自分が紡いだ時を思い出すのに必要な物かもしれない。  
桐子  
なんか、捨てられなくなっちゃったね。  
いや、捨てます。

地球の思い出

この後全員がそろった所で、段ボール箱や様々なアイテムを開封する。こんな物とっておいても仕方がないのにね、とか。置き勉の名残とか、昔のレコードとかプレイヤールとか。出てくる。竹一大喜び、個々にもあったんだ。そのうち、探検部、ヒーロー同 会の藤子達が、探検に出かける。メンバーが少なくなつた時桜の転校しまくり人生のお話となる。それからしばらくして、警報がなる。探検部が急いで帰ってくる。パツシブセンサーに引っかかったのである。どうするという話のなか、桜がこれかぶって！と言って猫の被り物を藤子に渡す。藤子猫の被り物をして行く。警備員登場。恐がりな先輩後輩である。上手花道に登場。全員耳をそばだて音を立てない様にし様子をうかがう。警備員とのやりとり。藤子が無事巨大な猫の約を果たして乗り切る。警備員帰る。

帰ってきた藤子が一瞬ヒーローになりそうになるが、元々の原因が藤子だと思い直し袋にされる。藤子の調達してきた食料をみんなで食う。食べながら、何でこんなにたまるんだらうね。捨てられないんだよね。との話となり、それぞれ捨てられない物の話となる。それから思い出の話となるが、転校前に手紙書くからっていつても来たのは2回だけとか、そういう話になり、よっぽどの事ないとすぐに忘れられちゃうんだよね。でもいいんだ、慣れるから。転校生でなくても同じだよ。という話になる。何で生きてるんだらうね。忘れられるのにさ。覚えていてもらうことがそんなに大事？とか様々な話となるが、辛気くさい話になる。あ、よっぽどの事しよう。忘れられないくらい、死ぬまでトラウマになるくらいによっぽどの事しよう。だいたいこんな辛気くさい所にいるからみんな落ち込むのさ。あたしが何とかしてやる。と桐子が下に降りる。みんなそうよね、なんか個々狭いしあんまり明るくないし、圧迫される感じよね。明るい話しよう明い話。とか言うが明るくならない。片づけるか。となるが、警報がなる。桐子、下から登場。やっちゃったよ。廊下で触っちゃったよ。竹一だから体堅いんだから。と言っている間に警備員来る。藤子に託される。桐子も責任もたされ行かされる。警備員と二人の戦い。発情した猫が、騒いでいるとの事で落ち着く。だから墓場の隣の高校はイヤなんだよ。システムをダウンする。二人帰ってくる。桐子持ってきたチェンソウで壁または屋根をぶち抜こうとする。忘れられない事してやる。トラウマにしてやる。とぶち抜く。みんな最初は辞めると言うがそのうち、よっしゃ、と全員で屋根をぶち抜く。満点の星空。松代が私は歴史に残るその他大勢になるよ。地球が出来てから36億年これからどうなるかわからないけど、あたしがいなきや先には進まない。あたしがいなきや今はない。その他大勢は名前も残らないし、記憶にも残らないけど、その他大勢がいなきや今はないし、明日もないんだ。ばっかじゃないの、普通歴史に名を残すだけさ。桜が、あたしまだ転校するんだ。この片づけ終わったら。みんな、え、後ちよつとじゃない。というが、でもいいのだ。トラウマになるくらい思い出できたし、きつと死ぬまで忘れないよ。死んでもね色々歩いてきたけどあたしはその場その場でシーンを創ってきた等との話をする。片づけようか。と誰かが言い出す。投げる。投げる。ヘルメットも、置き勉も、とって置くのは歴史をまとめた生徒会誌だけ、そこに登場しないその他大勢はもひつくるめて。後は捨てる。誰かに任せないで、第70代会長の私が捨てる。いよっ桜！思い出は捨てないよ。何十年経ってあたしの事知ってる人が誰もいなくなつても、あたしがいたから次の時代があるんだもんね。捨てます！でもこのまま見なかつたふりはしない。きちんと中身を確認して捨てます。じゃあ、やる。となり全員で片づけはじめ。竹一がこのレコードかけても良いかな。良いわよ。高校三年生がかかる。全員片づけはじめの中幕が下りてくる。